

# 次期高齢者プランの方向性 (案)

資料 2

## 1 現行プランにおける課題

人口構造等

- 高齢化の進展と生産年齢人口の減少
- 85歳以上人口増
- 高齢化世帯や一人暮らしの増加

医療費・介護給付費

- 平均寿命と健康寿命の差
- 認知症高齢者数の増加
- 介護保険認定率、給付額の増
- 医療費の増

地域の状況

- 自治会加入率減
- 地縁団体の高齢化や担い手の減

調査結果

### 【実態調査】

※一般高齢者

- ▶ 約8割が概ね健康→
- ▶ 高齢者の認識年齢上昇(75歳以上:30.7%→)
- ▶ コロナの影響による健康づくり・介護予防の通いの場への参加減(47%)
- ▶ 地域との関わり(ほとんど付き合いがない:12.5%↓)、地域活動(参加率20.8%↓)や就労(20.9%↓)の減
- ▶ スマホ使用率 42.1%↑

- ▶ 認知症への不安(家族への負担53.9%↑、自宅での生活継続42.2%→)
- ▶ 在宅介護者の負担感(40.3%→)
- ▶ 高齢者の権利侵害への不安増(42.3%↓)
- ▶ 制度や仕組みへの一定の評価  
介護保険制度(93.6%↑)、地域包括支援センター認知度(43.6%↑)

### 【ニーズ調査】

※一般高齢者

- ▶ 認知機能の低下(物忘れ)リスク(49.2%↑)
- ▶ 口腔・咀嚼機能の低下リスク(45.2%↓)
- ▶ 転倒リスク(45.3%↑)
- ▶ 通いの場(参加率19.3%↓)や趣味・スポーツ、自治会活動等への参加減

## 2 今後強化が求められる視点

高齢者支援と介護の質の向上推進会議の意見

### 介護予防や社会参加に関するもの

- ・オーラルフレイル改善のさらなる啓発。
- ・高齢者のスマホ普及をふまえた、ICT活用による介護予防サービスを。
- ・「働く場」と「介護予防」を組み合わせた新たな取組みを。

### コロナ禍等の影響による社会参加の減少に関するもの

- ・居場所づくりの強化、地域活動に引き込む仕組みづくりが必要

### 見守り合い・支え合いの地域づくりに関するもの

- ・助け合い活動への意思をより多くの人に広める仕組み
- ・生活支援サービス活動者等への支援体制の強化

### 認知症対策に関するもの

- ・認知症を、今は関係ない事と思っている人達への予防や相談窓口、いざという時の財産管理について、啓発を強化。(「他人事」としてではなく「自分事」として取り組む)
- ・認知症の人を在宅介護するためには、医療と介護の連携推進が不可欠。
- ・早期発見や、区役所窓口以外の気軽に相談できる仕組みづくりを。
- ・家族介護者の孤立感を解消するための集いの充実を。

### 地域における相談支援に関するもの

- ・退院後の在宅医療を継続するためには、運動器・内部疾患・精神疾患など総合的なリハビリテーションの推進が必要。
- ・地域包括支援センター業務の増大の中、複合的な相談などに対応できるように、相談体制の機能整理を。

### 介護保険に関するもの

- ・在宅で過ごすためには、介護だけでなく医療系サービスの強化が必要。
- ・施設入所者も高齢化が進み、医療的な処置が必要な人が多いため、様々な疾患に対応した医療提供体制の整備が必要。
- ・潜在的な有資格者は多くいるため、就労に結び付ける仕組みづくりを。
- ・事業者の経営者層の意識変革に向けて、ロボットやICT活用の啓発強化を。

## ビジョン

高齢者が健康で生涯現役を目指し、自分らしく安心して、人生100年時代を幸福に暮らすことができるまち



## 3 次期プランで目指す目標

1

健康で長生き



2

地域共生社会のまちづくり



3

住みたい場所で安心して暮らせる



# 次期高齢者プランの骨子(案)

プラン名 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○(現いきいき長寿プラン)  
～少子高齢社会モデル都市の実現を目指して～

## ビジョン

高齢者が健康で生涯現役を目指し、自分らしく安心して、  
人生100年時代を幸福に暮らすことができるまち



## 目標

健康で長生き

1

いきいきと  
できる範囲で  
支える側へ

高齢者と家族、地域  
がつながり支え合  
う、地域共生社会の  
まちづくり

2

ともに支え合う

自らの意思で  
自分らしく、  
住みたい場所で  
安心して暮らせる

3

治し支える  
切れ目のないケア

## 施策の方向性や 検討するポイント

### 人や社会とつながり続ける 役割や生きがいの機会創出

多様な就労、ボランティア等の  
社会参加の機会提供

公約

### 生涯を通じた介護予防・ 健康づくり

健康寿命の延伸に向けた健康づくりや  
通いの場の活動充実

### 地域の支え合い支援

地域の担い手育成、生活支援の仕組み、  
ソーシャルキャピタルの充実、  
孤独・孤立対策、高齢者の尊厳維持

### 認知症にやさしいまちづくり

認知症の人や家族を支える相談支援体  
制強化、早期発見・対応の仕組み、暮ら  
しやすい環境の実現(認知症にやさしいデザイン)

### 地域包括ケアシステムの深化・推進

公約

### 在宅医療・介護連携の推進

人生会議(ACP)の推進、看取り、緩和ケアの普及啓発

### 介護保険制度の適切な運用

公約

### 介護の人材確保、質の向上

介護職イメージアップの推進、経営者の意識  
改革、先進的介護「北九州モデル」の普及、  
外国人材の活用に向けた支援

### 安全・安心な暮らしの確立

# 現行プランの取組みにおける課題

参考資料

目 標	施策の方向性	課 題
いきいきと健康で、 生涯現役で 活躍できるまち	生きがい・社会参加・ 地域貢献の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長者大学校終了者や文化・スポーツ活動等の参加者の地域活動・貢献に結び付ける仕組み</li> <li>・コロナ禍の影響による、活動への参加減</li> </ul>
	主体的な健康づくり・ 介護予防の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくりや介護予防の取組みを通じた社会参加による健康寿命延伸</li> <li>・生活習慣病の発症予防、重症化予防への取組み</li> </ul>
高齢者と家族、 地域がつながり、 支え合うまち	見守り合い・支え合いの 仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人づきあいの希薄化、孤独・孤立の深刻化</li> <li>・地域での互助の必要性の認識低下</li> <li>・活動の担い手不足(就業年齢の延伸、共働き世帯増加による現役世代の活動者減少)</li> <li>・新たな人材の発掘・育成</li> </ul>
	総合的な認知症対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防の取組み</li> <li>・早期発見・対応の仕組みづくり</li> <li>・医療、ケア、介護サービス体制</li> </ul>
	高齢者を支える家族への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な課題を抱えた家族介護者に対応した支援のあり方</li> <li>・介護者の相談窓口が十分に周知されていない</li> </ul>
住みたい場所で 安心して 暮らせるまち	身近な相談と 地域支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターの機能充実</li> <li>・住みたい場所で暮らせる、サービスの提供体制の確保</li> <li>・生活支援サービスのあり方</li> <li>・在宅生活が継続できるための医療と介護の連携強化</li> <li>・入退院があっても切れ目のないケアが継続できるリハビリ等の仕組み</li> </ul>
	介護サービス等の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な介護サービスの提供</li> <li>・介護現場の人材確保、生産性向上、質の向上</li> </ul>
	権利擁護・虐待防止の 充実・強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の尊厳の維持(権利擁護や早い時期からのAPCや終活)</li> <li>・虐待防止の観点からの、介護者への支援</li> </ul>
	安心して生活できる 環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズに対応した多様な住まいの提供や情報提供</li> <li>・後期高齢者の増加を踏まえた移動支援策の充実</li> </ul>